

多文化共生研究所におけるフィールドワーク教育振興の取り組み 写真展と映像制作ワークショップの事例

愛知県立大学多文化共生研究所・副所長
亀井伸孝

愛知県立大学多文化共生研究所では、これまで学内のフィールドワーク教育実践の取り組みを支援してきた。本稿ではその事例を紹介し、今後の研究所と教育実践との連携について検討する。

事例紹介 (1): 学内における旅の写真展

外国語学部国際関係学科では、フィールドワーク教育の振興の観点から、毎年秋の恒例行事として「フィールドワーク・フェスタ「旅の写真展」」を開催している。多文化共生研究所としては、展示用の写真パネル作成のために、大型プリンタと作業場所を提供する形で、初回から毎回協力してきた。また、稲村哲也本研究所前所長（現放送大学教授、本学名誉教授）には、この写真展が軌道に乗るまでの間、たえずパネル作成と展示のための技術指導を受けた。

主催：国際関係学科フィールドワーク・フェスタ実行委員会（毎年度、学生たち有志により構成）

共催：国際関係学科専門科目「プロジェクト型演習 D「写真・映像による調査と表現」」（2015 年度後期、2016 年度後期、担当：亀井伸孝〔国際関係学科〕）

内容：国際関係学科の学生、教員の写真作品展示

期間：2011 年～2016 年（通算で 6 回開催）、例年 11 月に 2 週間開催

場所：愛知県立大学長久手キャンパス H 棟地下ホール



事例紹介 (2): 学外における旅の写真展(写真右)

外国語学部国際関係学科では、フィールドワーク教育の振興の観点から、2016 年 6 月に、学外で大規模な旅の写真展を開催した。多文化共生研究所としては、展示用の写真パネル作成のために、大型プリンタと作業場所を提供する形で協力した。

主催：外国語学部国際関係学科（担当：亀井伸孝、宮谷敦美）

内容：国際関係学科の関係者 62 人（学生 45 人、卒業生 9 人、教員 8 人）の写真作品 102 点展示

期間：2016 年 6 月 25 日（土）～26 日（日）

場所：イオンモール常滑 イオンホール B（愛知県常滑市、名鉄「りんくう常滑」駅より徒歩 1 分）

事例紹介 (3): 写真展「私と＜ラテンアメリカ＞」(写真左下)

映画やオリンピック開会式で使われるブラジルのイメージを中心に、メディアでのラテンアメリカ表象について研究した上で、「もし私たちがラテンアメリカを伝える立場になったら？」という問いから、学生が写真展を企画した。多文化共生研究所としては、展示用の写真パネル作成のために、大型プリンタと作業場所を提供する形で協力した。



主催：外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻「研究演習（ラテンアメリカ文化・社会）」（担当：渡会環〔ヨー

ロッパ学科スペイン語圏専攻))

内容：学生 15 人、ゼミ担当教員の写真作品展示

期間：2017 年 1 月 25 日（水）～2 月 1 日（水）

場所：愛知県立大学長久手キャンパス H 棟地下ホール

事例紹介 (4):映像制作ワークショップ(写真右下)

外国語学部では、フィールドワーク教育の振興の観点から、毎年、学生による映像制作ワークショップを開催している。2012 年度と 2013 年度は、本学の教育・研究活性化推進費事業により、2014 年度以降は、国際関係学科の専門科目の形態で開催してきた。この映像実習教育の実践報告が、本研究所雑誌『共生の文化研究』に掲載され、本学における特色ある教育の事例として公表された（亀井, 2015）。

主催：[2012、2013 年度] 2012 年度愛知県立大学教育・研究活性化推進費事業「映像技術を活用したフィールドワーク教育の振興」、2013 年度愛知県立大学教育・研究活性化推進費事業「映像技術を中心としたフィールドワーク技法の教育と成果の社会還元」（いずれも、代表：亀井伸孝〔国際関係学科〕

[2014 年度]「研究演習（国際文化）」（担当：亀井伸孝〔国際関係学科〕

[2015、2016 年度]「プロジェクト型演習 D「写真・映像による調査と表現」「研究演習（国際文化／国際関係）」（いずれも後期、担当：亀井伸孝〔国際関係学科〕

内容：外国語学部学生による映像制作と上映

期間：2012 年度～2016 年度（通算で 5 回開催）、
例年おもに後期に開催

場所：愛知県立大学長久手キャンパスにおける撮影
と編集の実習、学内外における公開上映会



達成と展望

本研究所が、学生たちによる成果発信を中心とした特色ある教育実践の取り組みの強化に寄与してきたことを、複数の事例により紹介した。本研究所の所員（教員）による研究成果を教育に活用していくことは重要であるが、あわせて、学生自身の調査力を高めていくこともまた、人材育成の上では欠かせない。学生たちを「教員による研究成果の受け手」に留めるのではなく、「自ら社会調査を実践して成果を公開できる発し手」に育てていくことも、大学および本研究所が貢献できる分野であるだろう。

従来は外国語学部および国際関係学科を中心とした取り組みが多かったが、日本文化学部、教育福祉学部などにもフィールドワークを実践する教員や学生がいる。全学部からの所員を擁する本研究所の使命として、このような活動を、学部を越えた全学的な取り組みとして強化していくことが期待される。

[写真 1 点目] 国際関係学科・旅の写真展／2016 年 6 月 26 日、イオンモール常滑にて、筆者撮影

[写真 2 点目] スペイン語圏専攻・写真展「私と＜ラテンアメリカ＞」／2017 年 1 月 25 日、本学長久手キャンパス H 棟地下ホールにて、筆者撮影

[写真 3 点目] 愛知県立大学＋桃山学院大学学生映像作品合同上映会／2014 年 2 月 8 日、大阪、シネ・ヌーヴォ X にて、筆者撮影

亀井伸孝. 2015. 「愛知県立大学におけるフィールドワーク教育実践報告：「学生のための映像制作ワークショップ」3 カ年の取り組み（2012-2014）」『共生の文化研究』（愛知県立大学多文化共生研究所）9: 113-126.